



40回展記念賞
倉持政江(埼玉)
「収穫のあと」
(日本画)

受賞について

四十回記念展おめでとうございます。そして四十回記念賞を頂き本当にありがとうございます。ありがとうございました。感動して意欲がわきました。自分の作品をまともに見られませんでした。さきたま支部長の住佐様には大変お世話になり感謝しております。

ある日、孫と散歩中取り残されたとうもろこしが夕日に照らされて、それはそれは素晴らしい色を出していました。北風の中に寄り添って立っているその姿を見て感動し「これだ」と思い何枚も描いています。

次は雪の中のとうもろこしに挑戦したいと思っています。この度の受賞には感謝の気持ちでいっぱいです。これからも宜しくお願いします。有難うございました。



新人賞
松井延之(埼玉)
「黎明華滝」
(油彩)

新人賞に木の葉揺れる

この度は、新人賞に選んでいただき、誠にありがとうございます。季節は秋なのですが、私の心は、期待と不安が交錯する春のように揺れ動いております。

制作にあたり、紅葉の時期に華厳の滝へ3年連続通いました。毎年、異なる華厳の滝と紅葉に、翻弄されつつ、表現したい世界観に思いを巡らせて心踊りました。

その間に、中禅寺湖周辺の紅葉についても、散策しながら調べてみました。赤やオレンジが目につくので、庭や街路樹で見かける種かなと思いましたが、様々な種類の楓の葉が織り成すことに、新鮮な驚きを感じました。宝物のように、落

葉を拾って持ち帰りもしました。制作開始から半年が過ぎたころ、力不足を痛感しました。作業量の膨大さが、想像を遙かに上回っており、完成することが出来ないのではと、不安に襲われました。制作開始から2年が過ぎた頃、どうにか着地点が見え、安堵しました。これからも、絵画制作の喜びを忘れずに、心豊かに在りたいです。

工芸の部



東京都議会議長賞
原 正吾(山口)
「天空の城(冬)」
(陶芸)

この度は、身に余る評価を頂き誠に有難うございました。受賞作「天空の城(冬)」は、備中松山城から、雲間に城下が見えた時の感動をモチーフとしたものです。

思い起こせば、2000年の春、単身赴任の手慰みに、土を触つたのが始まりでした。ほとんどの習い事は、転勤によって幕切れとなったのですが、陶芸だけは転勤する先々で新しい師を求め親しんで来ました。2009年に定年退職した後は、自宅の倉庫を陶房に改装し、ひとり作陶を続けています。

ひとりの作陶には刺激が少なく、モチベーションを維持するのはなかなか大変です。そんな私の作陶を支えてくれたのは、新日美への出品でした。好きなことを思いのままに楽しみ、このような賞を頂いたことを嬉しく誇りに思っています。近年、心臓疾患を抱え、作陶に手を焼くことが多くなりました。それでも、その時間はすべてを忘れることが出来ます。掛かり付けの医師も「それが生き甲斐なら」と片目を瞑って許してくれていますので、身体の許す限り頑張りたいと思っています。

待望の表彰式には出席しなかったのですが体調不順のため、御無礼とは思いつつも欠席させて頂きました。深くお詫言申し上げます。最後に、皆様の御多幸と新日本美術協会の益々の御発展を祈念して、御挨拶とさせて頂きます。



新日美大賞
内野美也子(東京)
「巢穴」
(粘土細工)

ステキな一年

お誘いを受けて昨年初めて作品を出品させて頂きました。何を作ろうか？どのように作ろうか？それらを色々考えて過ごす事は私にとつて楽しい時間でした。そして今回出展した作品に「新日美大賞」を頂く事となりました。名誉ある賞に驚くと同時に心から嬉しく思っております。

これから益々ワクワク心躍る一年を過ごせるような気がします。粘土が作る作品は多くは花、スイーツ、フルーツなど、なんともかわい作品が一般的でスイーツなどは食品サンプルのようによく出ています。

今年、私はもっと違う何か他の人が考えないような物を作りたいと思えました。あれこれ思いを巡らせていた日々は、本当に楽しくドキドキしていました。又出来上がった作品を多くの方々に見て頂ける事も幸福なのだと改めて感じています。

今回、皆様の作品を見せて頂き感動しております。私も時間を作り絵を描いたり何かできないか更に様々な挑戦をしていきたいと考えています。



中尾賞
倉田遼一(東京)
「碧釉連科文壺」
(陶芸)

「中尾賞」受賞に寄せて

この度は、第四〇回記念新日美展に於いて名誉ある「中尾賞」の受賞、誠にありがとうございます。

陶芸を始めて二十余年、近年は瑠璃色釉薬の変化を試行錯誤で研究しており、それと相性の良い他の釉薬との重ね掛けから、神秘

的な表情が現れる作品の制作を心がけておりました。今回の出品作「碧釉連科文壺」では初めての技法を用い、ただの釉薬重ね掛けで終わらず、表面に規則正しい斜め模様の凹凸を付けることに挑戦してみました。結果、表情豊かな壺となったように思います。

これからも釉薬の見せる表情の違いをいろいろな技法を試しながら追求し、作陶に精進してまいります。同時に新日美工芸部委員としての責務も果たしていく所存です。皆様方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



新人賞
湯沢朱美(栃木)
「大猷院夜叉門」
(切り絵)

心の声

名誉ある賞をいただきました。誠にありがとうございます。感謝と喜びの気持ちでいっぱいでございます。

この度、表彰を受けられたのは、言うまでもなく個人の力だけではありません。日々私を見守り、陰に日向にとりながら、支えてくださった家族や先生、先輩方々のお蔭であると、身に沁み感じております。

今の世の中は多くの情報がすぐ手に入る時代です。その中でただ映像を眺め受動的に情報を得るのではなく、自分の目で見て耳で聞く実感を享受することを大切にしています。

内に得たささやかな感動を人に伝える力を養い、いつかは時代を超えても尚、人に感動を与える作品を残せるような作家を目指したいと思っております。今回の受賞は私にとって大きな励みとなりました。

今後とも努力を傾注し、精進し続ける所存ですので何卒ご指導のほどよろしくお願致します。